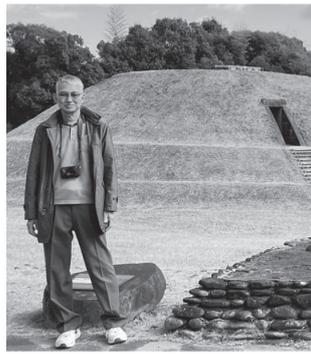


# 洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内  
洛友会  
〒606-8501  
京都市左京区吉田本町  
075-753-5270  
www.rakuyukai.org

## 紫式部はわがご先祖サマ？

九州支部長 能見 和司 (昭54年卒)



宮崎県西都原古墳群にて

### 1. 始めに

タイトルは何かの冗談？ ホラ話？ いえいえそうとも言い切れませんよ。

また皆さんは神社に参拝し、手を合わせてお願い事をする際に、八百万（やおよろず）と言われる多くの神々のうち「どなたに」お願いしているか意識していますか？ 御祭神がわからなければ肝心の神様も聞き耳を立ててくださらないのでは（笑）？

このような身近なところから日

本の歴史に興味を持っていただければ、というのが本稿のテーマです。

### 2. 自己紹介

申し遅れましたが、私は昭和五十四年卒（昭和五十六年修士）、洛友会九州支部長を拝命して八年目になります。

東京支部や関西支部では支部長任期一年のようですが、会員の少ない地方支部ではおのずと「長期政権？」になりますね。

昨年退職してフリーの身になりましたが、将棋、合唱、真空管オーディオ、カメラ、旅行など若い頃から多趣味のため退屈する暇などありません。

最近では、歴史、特に日本古代史や地元の福岡史に大きな関心を持ち、これらから得られる雑学も生かして、当地を訪問される国内外の方々を対象としたボランティア

アガイドの活動も行っていきます。

### 3. 紫式部は本当にご先祖サマ？

両親や祖父母そのまた両親... のように、その人が実在して子をなしてくれなかったら自分はいまこの世に存在しない「直系のご先祖」の数を計算しようとする、すぐに途方もない数字に行きついて果然とします。

たった十代（およそ三百年）遡るだけで二十乗、約千人、二十代（およそ六百年）遡れば二の二〇乗、何と百万人... このうちただ一人でもいなかったら、今の自分は存在しない...。

これは別系統同志の婚姻が継続したという仮定に基づく単純計算で、実際には何世代前か遡れば共通といった重複が多いと想定されるので、これよりはるかに少ないでしょう。

それにしても、凄惨なることとは明らかで、おそらくどんなに詳しい家系図をお持ちの方でも、父母両系統を十代前まで完全に遡ることはまず不可能と思います。

一方で歴史を逆方向から見ると、たとえば紫式部とその娘賢子の実在ははっきりしているし、その子孫が現代まで広く連なっていることも事実のようです。

その血筋は天皇家にも繋がっているとの話もありますが、ともあれ紫式部がもし実在しなければ、

あるいは藤原宣孝と結婚しなかったらこの世に生まれてこなかった人が、その後の約千年間で膨大な数に上ることは確実で、そのすべてを把握することもまた全く不可能でしょう。

さらに私は鹿兒島出身ですが、父方の祖先が江戸末期に近畿から薩摩に移住してきたことが分かっています。

これらを考え合わせると、私が（貴方も）式部の子孫という可能性は否定できないでしょう。だからどうこう、は何もありませんが（笑）。

4. 名もなき一兵士や古代人への思い  
有名人でなくても、たとえばその後の歴史を大きく左右した古代最大の内戦「壬申の乱」（六百七十二年）に参戦した名もなき一兵士が、もしも運良く生還して子孫を残せずに戦死していたら、自分はいま存在しないかもしれない、という仮説もあり得ます。

私など弥生時代や縄文時代の遺跡から出土した人骨を見ても、それが成人のものであれば、もしかするとこの人も直系のご先祖さまかも、と妄想して思わず手を合わせてしましますが、最近のゲノム解析の成果などをみれば、あながち可能性ゼロとも言えません。

このように考えていくと、歴史上の人物や出来事が、自分の存在、

ルートにも関わる身近なものに思えてきます。

### 5. 神社は歴史の証人

全国にはコンビニ（約五万八千店）よりはるかに多い八万社以上の神社が鎮座しており、生活に密着した身近な存在ですが、実は神社の位置や周辺自然环境、創建の由来、御祭神、また奉納される祭りや神楽などは、現実にその地で綿々と生きてきた私たちのご先祖たちの営みの証であり、謎の多い日本の古代史を解明する一つの鍵でもあります。

ただ、初めから〇〇神社として創建されたことが分かっているのは比較的新しい時代のもので、古い神社はもともと山や岩など自然崇拜から始まったものが時の為政者によって性格が変えられたりしてきたので、謎をさらに複雑にしています。

そんな神社に関する幾多の謎のうち一つだけ挙げると、なぜ出雲大社（島根県、宇佐神宮（大分県）、弥彦神社（新潟県）のわずか三社のみ「二礼四拍手一礼」の参拝作法なのか、です。

理由は不明ですが、私は各々の位置や御祭神に関連して、日本建国の歴史にも関わる理由があるのではと考えています。

### 6. 邪馬台国はキケン

アマチュア歴史ファンに絶大な

人気を誇る「邪馬台国・卑弥呼」ですが、謎解きの面白さがあるのももちろんそれなりに興味はあるのですが、どうも本質を外れた非現実的な議論が多すぎて少し辟易しているのが正直なところでは、また邪馬台国については、私の地元の九州大学と京都大学では全く立場が違いますので、なおさらアンタッチャブルということ（笑）。

7. 過去から現在・未来を考える  
私は、歴史はロマンなどではなく、まして一部の権力者によって後世に作られるものではなく、私たちの直系のご先祖たちがその時代、その環境で日々懸命に生きており、それを積み重ねて認識していき、それを今でいうと現在を知り未来を考えたいと思っています。

たとえば、縄文時代の一万年間に大きな気候変動を繰り返しながら生きてきたこと、また各地の縄文遺跡から出土する漆器が、現代の漆職人も驚く複雑な工程と高度な技術を駆使したものであること、などはいろいろなことを教えてくれます。

8. 科学技術の活用  
歴史解明の現場では、主に考古学と文献史学の分野で、気の遠くなるような膨大な地道な作業に基づき研究が行われてきましたが、

こうした研究をさらに発展させるために最新の科学技術を活用する試みは、ずいぶん以前からなされてきました。

たとえば素粒子ミューオンの活用により大ピラミッドの未知の間が明らかになったことが話題になりましたが、土木、建築、電気、化学、バイオ、気象、天文、地学、生物、医学、食物その他あらゆる科学技術が多くの歴史研究の場で活用されており、最重要テーマの一つである遺物の年代測定に放射性同位元素や木材年輪が使われるなど、大きな成果を挙げています。

また最近ではゲノム解析が進展しており、日本人が何者か？との根源的な謎を解き明かす努力が多く、研究者によってなされています。

9. 実は洛友会員も関与？  
歴史研究に活用される技術や機器は、ミューオンやゲノムもそうであるように、本来ほかの目的で開発されたものが大半でしょう。

その意味で、洛友会員の皆さんが日常的に接しておられる技術や機器が、思わぬところで歴史の解明に貢献している可能性も大いにあります。

そういう目で歴史のニュースなどに接すると、新たな発見があるかもしれません。

10. 結び・歴史を知る意義

最後になりましたが、世界中で日本人ほど建国以来の自国の歴史に疎く、また関心も薄い国民はいないのではないかと思います。

これは島国特有の事情もあって国の歴史自体が極めて長く、加えて初期には文字を持たなかったこと、また近代だけでも明治維新・大戦後の二度も歴史観・政策・教育の大転換があったことが理由とされます。

しかしながらこのことは、不幸な戦争をはじめいま世界で起きていることを理解するうえでも、また国際社会において他国の人とお互いにプライドと敬意を持って対等に渡り合ううえでも、私たちが感じる以上に大きな問題ではないか、と危惧しています。

構えることなく身近なところから日本の歴史に興味を持つきっかけとして、本稿が少しでもお役に立てれば望外の幸せです。



教室だより

2024年度電気系

野球大会

本年度も例年と同様に野球大会を開催することができました。今年度は前年度と比べて多くの研究室の方に参加していただき、盛況のうちに終わることができました。

研究室としては、白石研究室、吉井研究室、電子材料物性研究室、先端電気システム論講座、木本研究室、電磁回路工学研究室、小嶋



研究室、大村研究室、篠原研究室、山本研究室、竹内研究室、萩原研究室、川上研究室、松田研究室、石井研究室、松尾研究室、中村研究室、米澤研究室、阪本研究室、野田研究室、量子電磁研究室の計21もの研究室に参加していただきました。

この野球大会を通じて、研究室に配属されたばかりの学部4年生と仲を深めることができただけでなく、研究室の垣根を超えた交流をすることもできたかと思えます。

本大会の順位は、1位が白石研究室、2位が川上研究室、3位が竹内研究室となりました。

2位の川上研究室には、来年度の野球大会の幹事を務めていただきますので、来年度の野球大会は更に活気に満ちあふれたものとなるものと期待しております。

最後に、本年度も大会に関係するすべての皆様のご理解、ご協力があったからこそ、大会の開催まで至ることができました。ここに感謝申し上げます。また、本年度も洛友会からのご支援を承りました。深く御礼申し上げます。

量子電磁工学研究室

M1 榎本隆大 (令6年卒) 記



### 第21回電気電子工学科 交流会の開催

本年度も電気電子工学科交流会が開催されましたのでご報告申し上げます。今回で21回目となりました交流会は、2月14日(金)にさざんか亭六角店にて開催されました。本交流会は例年、研究室配属を控えた電気電子工学科3回生が教員の方々と親睦を深めるために企画、開催されており、その運営は電気電子工学科の4回生の6名の有志が中心になって行っております。本年度も、先生方および洛友会からの多大なご支援、ご協力のもと、学生と先生方との交流の場を設けるといふ目的を無事果たすことができました。

交流会は、先生方と学生による対面での立食パーティーの形式で開催されました。当初こそ緊張した学生も多い様子でしたが、先生方の気軽な語り口により、和やかな雰囲気の中で徐々に話を弾ませていきました。学生から積極的に先生方に質問する姿も多く見られました。参加した学生からは、様々な分野の先生方と話すことができ、視野が広がったという声や、配属後の研究室生活だけでなく、大学院卒業後の進路などに関しても先生方の経験談を交えて聞くことができてよかったという声などが

多くの好評な感想をいただくことができました。

こうした会の開催に携われたことに幹事一同深く感謝しております。今後ともより多くの先生方と学生の交流を深める一助となるべく、来年度の開催に向けて後輩への引き継ぎを進めております。最後になりましたが、交流会にご参加あるいはご協力いただいたすべての先生方、学生に心より感謝申し上げます。また、交流会の趣旨にご賛同いただき、例年の開催にご援助をいただいております洛友会に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

第21回電気電子工学科交流会幹事  
代表 松田歩樹(令7年卒)記



### 教員の異動

#### 昇任

- (令和6年7月1日付)
  - 電気工学専攻
    - 美船 健 准教授(電磁エネルギー工学)
- (令和6年8月1日付)
  - 電気工学専攻
    - 細江 陽平 准教授(自動制御工学)
- (令和6年9月1日付)
  - 電子工学専攻
    - Menaka De Zoysa 教授(ナノプロセス工学)
- (令和7年1月1日付)
  - 電気工学専攻
    - 薄 良彦 教授(先端電気システム論)
  - 伊藤 陽介 准教授(生体機能工学)
  - 電子工学専攻
    - 船戸 充 特定教授(光材料物性工学)
    - 浅野 卓 特定教授(光量子電子工学)

#### 着任

- (令和6年4月1日付)
  - 知能情報学コース
    - 櫻田 健 准教授(コンピュータビジョン)
  - 通信情報システムコース
    - 上野 嶺 准教授(超高速通信)

#### 号処理

- (令和6年5月1日付)
  - システム科学コース
    - 野村 泰伸 教授(医用工学)
- (令和6年10月1日付)
  - 知能情報学コース
    - 川原 僚 講師(コンピュータビジョン)
  - システム科学コース
    - 片山 梨沙 助教(論理生命科学)
- (令和7年2月1日付)
  - 電子工学専攻
    - Jorge Luis PUEBLANUNEZ 准教授(極微電子工学)

#### 転出

- (令和6年11月30日付)
  - システム科学コース
    - 今井 宏彦 助教(バイオサイバネティクス) 岐阜大学
- (令和6年12月31日付)
  - エネルギー理工学研究so
    - 篠北 啓介 助教(エネルギー光物性) 分子科学研究so
- (令和7年3月31日付)
  - 電気工学専攻
    - 比留間真悟 助教(電磁エネルギー工学) 北海道大学

- ・電子工学専攻  
衛藤雄二郎 准教授(応用量子物性) 理学研究所
- ・通信情報システムコース  
水谷 圭一 准教授(デバイス) 名古屋大学

退職

(令和7年3月31日付)

- ・電気工学専攻  
土居 伸二 教授(複合システム論)
- ・電子工学専攻  
野田 進 教授(光量子電子工学)
- 川上 養一 教授(光材料物性工学)

- ・エネルギー基礎科学専攻  
中村 祐司 教授(電磁エネルギー学)

分野名の変更

(令和6年11月1日付)

- ・システム科学コース  
医用工学 ↓ バイオサイバネティクス

(令和7年2月1日付)

- ・通信情報システムコース  
情報回路方式 ↓ 情報回路アーキテクチャ
- 大規模集積回路 ↓ 低電力集積回路デザイン
- 超高速信号処理 ↓ 集積コンピュートインゲ

令和6年度卒業生の進学就職状況について(報告)

電気工学専攻長

松尾 哲司

電子工学専攻長

米澤 進吾

電気電子工学科長

下田 宏

令和6年度の電気系教室卒業生の進学就職状況についてご報告いたします。まず最初に、今年度の就職に際しても洛友会会員諸兄諸姉より例年と変わらぬ多大なご支援を賜りました結果、就職希望学生の就職が無事に決定致しましたことに関して心から御礼申し上げます。

令和6年度の電気電子工学科(学部)ならびに工学研究科電気工学専攻、同電子工学専攻および情報学研究科通信情報システムコース(以上修士)の進学・就職状況を表に示しました。

まず、工学研究科電気工学専攻・電子工学専攻の進路・就職に関しましては、11名が博士後期課程に進学し、60名が就職いたしました。産業界全般に亘って比較的景気が安定している状況を反映して、電気系教室に対して非常に多くの企業から以前と変わらぬ求人頂戴し、最終的には、就職希望者数に

令和6年度卒業生進学就職状況

工学研究科(電気工学、電子工学)、情報学研究科(通信情報システム)、電気電子工学科

修了, 卒業者数 進学	修士	学部	進学・就職先
	11		京都大学工学研究科電気系専攻博士後期課程
	4		京都大学情報学研究科通信情報システム専攻博士後期課程
		66	京都大学工学研究科電気系専攻修士課程
		26	京都大学情報学研究科通信情報システムコース修士課程
		5	京都大学情報学研究科知能情報学コース修士課程
		2	京都大学情報学研究科システム科学コース修士課程
		1	京都大学情報学研究科科学情報メディアセンター修士課程
		3	京都大学エネルギー科学研究科エネルギー応用科学専攻修士課程
		2	京都大学エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻修士課程
		4	京都大学エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻修士課程
		4	京都大学エネルギー科学研究科エネルギー理工学研究科修士課程
		1	京都大学経済学研究科修士課程
		2	東京大学情報理工学系研究科修士課程
		1	東京大学工学系研究科修士課程
		1	東京大学生産技術研究所修士課程
		1	奈良先端科学技術大学院大学情報学専攻修士課程
小計	15	119	
電気関連	35	2	JASM、キーエンス、ディスコ、野村総合研究所、住友電気工業、ソニーグループ、ソニーセミコンダクターソリューションズ、東京エレクトロン、日本ガイシ、パナソニックホールディングス、パナソニックオートモーティブシステムズ、パナソニックインダストリー、パナソニックコネク、パルスパワー技術研究所、SCREENセミコンダクターソリューションズ、東芝、日立製作所、日立ハイテク、京セラ、NEC、富士通、三菱電気、日鉄ソリューションズ
通信・情報・放送	9		データX、NTT研究所、KDDI、ソフトバンク
電力・ガス	3	1	関西電力、関西プラント、東京ガス
機械・自動車・鉄鋼	13	1	オリンパス、トヨタ自動車、クボタ、日産自動車、三菱重工業、デンソー、IHI、三菱ロジスネクスト
運輸・鉄道	3	1	東海旅客鉄道、JR西日本、全日本空輸
化学・他製造業等	4		ダウ・ケミカル・ジャパン、モリタ製作所、キヤノンメディカルシステムズ、シスメックス
金融・商社等	10		IBS、SMBC日興証券、日本政策投資銀行、住友商事、野村総合研究所、マネーフォワード、bitbank、アイフル
その他	5	7	A.T.カーニー、アビームコンサルティング、SEGA、パナソニックオペレーショナルエクセレンス、リンク&モチベーション、TSMCデザインテクノロジー、ベネッセ、ゲームフリーク、ナショナルソフトウェア、フリー、楽天、ペイカレントコンサルティング、ソニーインタラクティブエンタテインメント、Tech Knowledge Base
小計	82	12	
研究生・帰国等	8	6	帰国、未定
計	105	137	

対しほぼ100%の就職率を得ることができました。就職先は、昨年と同様に、電気・通信関連企業に加えて、自動車・機械メーカーや重工業関係企業の志望者が多い状況です。ただ、なぜか電力関係への学生の就職数が減少しました。学校推薦に関しては、本年度より推薦枠と一般枠と間の交通整理をやめ、学生の自主的な活動に任せる方針にシフトしました。これは、推薦枠応募でもジョブマッチングという名の実質的な選考が行われる場合や、自由枠応募でも最終的に「後付け推薦」が要求される場合が主流となっている現状を踏まえたものです。この方針変更による大きな混乱はなく、ほとんどの企業の方にも理解いただけたとともに、学生にもおおむね好評でした。結果的には、約6割の学生が何らかの形で推薦を利用して就職しました。また、表1には記載してありませんが、博士後期課程については約半数強が民間企業に就職、残りが大学の助教・博士研究員等に採用されており、博士後期課程学生の受け入れに関して、企業も積極的に間口を拡げてくださっている印象です。博士後期課程については、修士から5年一貫の連携教育プログラムを生かして、早期から博士の学位を目指した研究に没頭し、国内外の学会

で活躍する学生が増えています。情報学研究科通信情報システム専攻および電気電子工学科に関しましても、同様に多くの学校推薦枠を頂戴し、また見学会等により、多くの学生が当初より希望する企業に就職しております。特に、学部卒で就職をする学生のために、推薦枠を修士と独立に設けていただいている企業もあり、大変ありがたく思いました。内訳をみますと、専攻の専門性から少し距離のある、ソフトウェア、金融、サービスプロバイダ等の業種にチャレンジする学生も見受けられますが、通信インフラ関係の企業と総合電機メーカーへの就職が今年も多くなっています。また、自動車関連企業に就職する学生が一層増えている印象です。自動運転等を実現するためハードウェアとソフトウェアの両方を理解する素地のある学生が求められているものと考えております。さらに半導体関連企業へも、従来より数が減ってはいますが、一定数の学生が希望し就職を決めております。就職先分野にも産業界の状況が反映された形にはなっておりますが、卒業生はいずれも希望する企業に就職を決める事ができました。

以上、会員の皆様のご厚意とご

配慮に心より感謝申し上げます。次第でございます。

会員寄稿

カウラ訪問記

柴戸 義彦

(昭56卒・九州支部)



昨年8月、私が勤める会社が加盟している福岡日豪協会の用件でカウラ市を訪問しました。今回は、その内容を投稿します。

カウラ市はオーストラリアのニューサウスウェールズ州にある街で人口約1万人、シドニーから西に約300kmの位置にあります。

カウラ市には第2次大戦中、日本兵の捕虜収容所が設置されました。ここでは1944年8月5日午前2時頃、約1100人の日本兵捕虜がバットや食事用ナイ

フ等を武器に蜂起し、宿舎に火を放って脱走を図った事件が発生しました。多くは警備のオーストラリア兵により脱走を阻止され、収容所外に出た捕虜も連れ戻され、失敗に終わりました。オーストラリア政府によると、死者は日本側が231人、オーストラリア側が4人。日本兵捕虜は人道的扱いを受けていましたが、日本軍の戦陣訓「生きて虜囚の辱めを受けず」が影響を与えたとされています。生き残った日本兵捕虜は1946年に帰国しました。亡くなった日本兵捕虜は現地で埋葬され、戦後、カウラ市の住民らによって供養が続けられています。

2024年はその脱走事件から80年であり、盛大な式典が行われました。私は8月4日〜5日の諸行事に参加しました。簡単に主な内容をご紹介します。

●ピースベル・セレモニー

(8月4日午後4時頃)  
カウラ市庁舎の前に設置してある平和の鐘を各界の要人が交代でつくつというもので、この鐘はニューヨークの国連本部にある鐘の複製だそうです。また参加者には鳩があしらわれたピンバッジが配布されました。



●ランタン・パレードと式典

(8月4日午後5時頃)  
南半球最大の日本庭園から捕虜収容所跡まで約30分かけ、亡くなられた数のランタンを持ってパレードを行いました。その後の捕虜収容所跡での式典開始の頃には日没となり、ランタンの灯が幻想的な雰囲気を出してまいりました。



●捕虜収容所跡でのイベント

(8月5日午前2時頃)  
式典後、カウラ市長主催の夕食会を経て翌日午前1時半頃、捕虜収容所跡に戻りました。日本とは真逆の真冬であり、カイロを背中  
に貼り、震えながら参加しました。脱走が始まった午前2時になる  
と、大掛かりな焚火と照明弾で当  
時を再現しました。  
厳かな雰囲気の中、行事が進行し、  
全行事の中で一番感動しました。



●献花式

(8月5日午前9時頃)  
日本人墓地とオーストラリア人  
墓地での献花式には日本側から外  
務大臣政務官、福岡県知事をはじめとする関係者およそ100人  
が、オーストラリア側は首相他、  
地元住民約200人が参加しまし  
た。  
オーストラリア人墓地への献花

のタイミングでは上空をF35戦闘機が飛行し、式典を盛り上げました。日本人墓地での献花式では、  
仏教と神道による鎮魂行事が手厚く行われました。身元が判明して  
家族に類が及ぶことなどを恐れ  
て、日本兵の墓標に刻まれた名は  
ほとんど偽名であり、現在でも身  
元不明の方が多いとのこと。脱走に成功してもオーストラリア  
国外に脱出できる見込みもない中  
で、自殺行為に等しい行動に出ざるを得なかった当時の日本兵捕虜  
の心情を慮ると心が痛みました。



この日本人墓地はカウラ退役軍  
人会の方々が、放置されていた日  
本兵の墓をまだ反日感情が残る  
中、恩讐を超えて維持管理され  
てきた。1964年に完成  
しました。  
この墓地にはオーストラリア内  
他の収容所で亡くなられた方な

どを含む522人の日本人が埋葬  
されており、オーストラリア政府  
から日本政府に借地権が与えられ  
ているとのこと。す。  
●モーニング・ティー

(8月5日午前11時頃)  
脱走兵がオーストラリアの家庭  
に逃げ込んだ際、地元の方がス  
コーンと紅茶を与えたことに因ん  
だセレモニーが日本庭園にて献花  
式に続き、催されました。私もジャ  
ムとクリームが添えられた当時は  
再現したスコーンをおいしくいた  
できました。



今や、カウラ市は日本とオース  
トラリアの戦後和解と友好関係を  
象徴する街となっており、昭和48  
年には当時の皇太子同妃両殿下が  
この日本人墓地をご訪問された後  
も皇族のご訪問が続いています。  
改めて平和の尊さを感じたカウラ  
訪問となりました。

卒業から5年、

変わりゆく世界と自分

稲垣 翔太  
(平30卒卒・中部支部)

はじめに

2020年に京都大学を卒業し  
てから早くも5年が経ちました。  
この間、世の中は驚くほどの速さ  
で変化し、私自身も仕事やライフ  
イベントを通じて多くのことを経  
験しました。今回は、私が特に関  
心を持っているテクノロジーの進  
化、自動車業界の動向、そして家  
族の出来事についてお話ししたい  
と思います。

生成AIの進化と可能性

ここ数年で最も衝撃を受けた技  
術の一つが生成AIです。  
ChatGPTをはじめとする  
AI技術は、単なるチャットボツ  
トの域を超え、文章生成、プログ  
ラミング補助、さらには創造的な  
作業までこなすようになりました。  
私の職場では、Microsoft  
のCopilotの活用が徐々に  
進められており、情報検索や、議  
事録作成など一部作業の効率が一  
拍上がっています。また、自  
分はデータ解析用にExcel  
VBAやMatlabなどを用い  
てツールを作成する機会が多いの  
ですが、その際のコーディング補  
助としてもよく使います。要件

を伝え、生成されたスクリーン  
を試し、修正を加える……この繰り返  
しだけで、自分で書くよりも早  
く、しかも可読性の高いコードが  
得られます。自分で書かないこと  
によるスキルの低下などの弊害も  
考えられますが、効率を優先し、  
割り切つて活用しています。

直近の話題では、中国で  
Deepseekが開発され、  
ChatGPTやGemini等  
に比べて開発コストが低いことが  
注目を集めています。開発コスト  
が抑えられるようになると、参入  
障壁が下がり、価格競争が始まり、  
結果低コストで高性能なAIが普  
及すると思います。これにより、  
幅広い分野でAIが使用され、仕  
事の効率が上がり、創造的な仕事  
に時間を割けるようになることで、  
結果人類がより豊かになるような  
製品やサービスが出現すると期待  
しています。時代の波に乗れるよ  
う、日頃から情報をキャッチして  
いくことも大切だと感じます。

電気自動車とHEV回帰の流れ

電気自動車(BEV)の普及が  
進む中で、興味深い動きが見られ  
ます。特に、BEVの代表格であ  
るテスラと中国のBYDの競争が  
激化し、同時にハイブリッド車  
(HEV、PHEV)が再評価さ  
れる流れが出てきています。数年  
前まではBEVといえればテスラの

イメージでした。しかし最近ではBYDの台頭が目覚ましく、2024年第3四半期の決算では売上高がテスラを上回りました。BYDは軽自動車レベルの価格帯からBEVを展開しており、特に中国市場でのシェアは非常に高いそうです。また、価格の安さだけでなく、自動運転やADAS等の先進安全装備も充実しており、機能面でも魅力のある商品を展開しています。さらに、開発スピードも速く、次々と新型車を発表しています。BYD台頭は、テスラだけでなく国内自動車メーカーにも影響を及ぼしています。例えば、もともと日本車のシェアが高かった東南アジアでは、この5年間でシェアが10%以上低下したと言われています。今もこれからも、勢いのある中国勢に食いつぶされないよう、日々技術開発に力を注ぐ必要があると感じます。

一方、欧州ではEV市場を中国メーカーに乗っ取られる危機感が高まり、規制や補助金制度の見直しが進められています。これにより、欧州におけるBEVの販売台数の鈍化が発生しており、各社BEV一辺倒だった方針を転換し始めています。結果、BEVよりも航続距離が長く、ガソリン車よりも環境負荷が低いHEV、PHEV車が再び注目されています。

す。BEVに対して利益率が高く、BEVよりは価格競争が起きにくいため、HEVをラインナップに持っている会社にとっては追い風となりそうです。ただ、BEV推進の速度は緩まったものの、環境規制は年々強化されており、各社環境クレジットを払わずに販売できるように技術開発に動んでいると思います。

補助金や規制など国の政策により産業の方向性が変わることを目の当たりにし、改めて世の中の不確実性を実感しました。世の中がどのように変化しても働けることが重要なスキルをつけることが重要だと思いました。

**子供の誕生**

私事ですが、最近子供が生まれました。生後1か月間は自分も妻の実家で過ごし、その後、育休を1か月取得し、妻と子供の3人生活を楽しました。最初の数か月間は3時間おきに授乳し、排泄頻度が高いため何度もおむつ替えをする必要がありました。また、赤ちゃんは体力が低く連続して寝ることができず、数時間おきに泣くため、都度あやす必要がありました。不慣れな中、夜中に何度も起きてお世話をするのは大変でしたが、妻と協力して遂行でき、絆が深まったと感じます。また、どんなに大変でも子供の寝顔を見ると

すべてが報われる気がします。子供が生まれてから数か月が経ちましたが、その成長スピードには驚かされるばかりです。生まれた時は目も見えなかったのに、今では目を見て笑いかけてくれるようになるなど、成長を見るのが楽しいです。子供は、昨日できなかったことが今日できるようになる、そんな瞬間の積み重ねで成長していくのだと実感しています。

子供は、私たちが生きてきた以上に厳しい世界を生きていくことになるかもしれません。だからこそ、どんな環境でも自分らしく生きられるよう、しっかりと土台を築いてあげたいと思います。そのために、育児についても勉強と実践を繰り返して、親として成長できるよう頑張りたいと思います。

おわりに  
現在、技術革新や各国の政策、世界情勢の変化など我々を取り巻く環境は日々変化しています。これからの時代、どのようなスキルを身につけるべきか、どの分野に注目すべきかを常に考え続けることが重要だと感じています。今後技術の進化とともに、子供の成長を見守っていかうと思います。最後に、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りし、締めくくらせていただきます。



**支部だより**

**中国支部行事報告**

令和6年12月7日(土)、冬の一つとした冷たい空気を感じられる中、10名の支部会員にご参加いただき、中国支部行事を開催いたしました。例年、中国支部では会員相互の交流を深めることを目的として、中国地方の企業を中心に見学会を開催しておりますが、今年5月の中国支部総会にお越しいただいた佐藤高史教授のご厚意で、京都大学吉田キャンパスを訪問し、電気系関係の建物や先生の研究室を見学させていただきました。

まず初めに工学部電気総合館大講義室(通称・電総大)をご案内いただきました。建物の外観は私が学生時代を過ごした当時(約20年前)と大きな変化はないように思われ、学生時代の懐かしい記憶が蘇ってきます。建物の中に入ると、記憶にはないスペースが広がっており、打合せ机が数脚配置され、学生が自習をしたり議論をしたり、エレクトロニクスサマーキャンプもこのスペースで行われているとのことでした。大講義室の中もご案内いただきました。机や椅子が綺麗になっており、内壁に耐震補強が施されていることが





大きな違いでしょうか。講義室前方の黒板は健在で、現在も板書される先生もいらつしやるとのことですが、天井から吊り下げ式のプロジェクトスクリーンも設置されており、スライドを映写して講義される先生もいらつしやるのとこのことでした。また、講義室の後方には、コロナ禍の名残でCO2モニタが設置されており、現在でも使用されているとのこと。CO2濃度が高くなると眠気を催すため、換気の目安としているそうです。学生が講義に集中して臨めるように工夫されている様子を伺えました。

デル化や冷却機の冷却能力に見合うような低消費電力の回路方式の検討が課題というお話を伺いました。

その後、電気系関係の建物をひと通り見学した後、最後に電総大前に戻り、長尾真先生の「切磋琢磨」の書の下で集合写真を撮影し、京都大学を後にしました。今回の出席者が昭和48年卒から令和2年卒ということで、各々が感じる懐かしさ度合いにも相応の幅があったと思いますが、最新の教育現場を肌で感じられたことは大変有意義でした。

京都大学訪問後は、がんこ三条本店にて会食を行いました。今回初参加で出席者最年少の令和2年卒の湯村さんから自己紹介と近況をご報告いただいた後、皆で酒を酌み交わし懇親を深めました。

最後になりますが、この度は休日にもかかわらず、貴重なお時間を割いて非常に丁寧にご案内をいただきました佐藤高史教授には厚く御礼申し上げます。今後多くの支部会員の皆様に参加していただける行事を企画し、活動を盛り上げて参りたいと思っております。引き続きよろしく願っています。



### 九州支部懇親会報告

令和7年1月25日(土)、福岡市博多区のオリエンタルホテル福岡博多ステーションにて、九州支部の懇親会を開催しました。今回の参加者は9名でした。

懇親会は工藤幹事(昭62年卒)司会のもと、能見支部長(昭54年卒)のご挨拶で始まり、出席者最年長の岡さん(昭35年卒)より乾杯のご発声をいただきました。参加者全員で杯を交わしながら、和やかな雰囲気の中で進行しました。話題は、人材不足問題、インバウンド、福岡市地下鉄の現状、そして今後の九州支部の体制など多岐にわたり、どの話題に対しても各人の経験をもとに活発な意見交換が行われました。具体的な課



田中 仁志(平22年卒) 記

題解決への提案もあり、知見をより一層深めることができました。また、洛友会ホームページに関するトラブルについても、メンバーへの情報共有が行われ、現状の把握と今後の改善について都度連携していくことが確認されました。参加者からは、迅速な対応と情報共有が求められ、積極的な意見が交わされました。

その後、参加者同士が近況を報告し合いながら、会は進行しました。時間が経つのもあっという間で、最後は柴戸さん(昭56年卒)による締めめの言葉で、楽しいひとときを締めくくりました。

次回は令和7年6月頃に総会を実施する予定で、引き続き多くの会員のご参加をお待ちしております。

昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
50	47	42	39	38	36	35	34	34	34	32	28	24	24	24	24	24	24	24	24	24
船越	外村	山下	田	小	武	細	大	宇	有	松	門	門	門	門	門	門	門	門	門	門
利之	健一	鐵五郎	忠宏	寺	井	見	園	田	村	本	脇	脇	脇	脇	脇	脇	脇	脇	脇	脇
6	6	6	6	6	7	7	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
11	11	10	12	9	2	1	12	1	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
28	28	17	20	15	16	25	27	16	17	17	17	19	19	19	19	19	19	19	19	19

以上の方がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

